

足利風 -ashikaga-fu

2022
2月号
Vol.78



水彩画：川島直人

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00～19:00
休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1
足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集!
「希望とは人間愛である」
- * TOPICS
「松岡流
ジャパンスタイル!!」
- * 私のボランティアことはじめ
「羅針盤」 川岸洋子
- * サークル紹介
「かばさき (樺崎)
こどもの森」
- * INFORMATION

* 特集！ *

「希望とは人間愛である」

NPOは、Warm-Heart（温かい心）とCool-Head（冷静な頭脳）が必要だ。もちろん、真ん中にあるのはボランティア精神である。両者は深いところでつながり共振している。

1950年代を発端とする水俣。そして、2011年のフクシマ。この2つの土地は六十年の時を経て共振している。先ごろ亡くなられた水俣の作家・石牟礼道子さんは、「苦海浄土」3部作で知られている。その石牟礼道子さんが第4部を書いたら“胎児性患者”の方々のことを書きたいと言っていた。私は、学生時代に、東京・山谷でボランティア活動を始めたが、縁あって水俣の胎児性患者さんたちとも関わった。石牟礼道子さんは語る～この病める集団が切ないのは、まだ思春期の心を持ったまま老化していくこと



ことです。五十歳を超えても少年少女であるのに歴然と老化が進みつつある。熊本大学研究陣が原因物質を公表した後でもチツソは排水を止めなかった。流されたのは有機水銀ではなかった・・・石牟礼道子さんは吟遊詩人である。いかなる過酷な状況の中でも希望を見失わない。石牟礼道子さんの“希望とは人間愛”である。

水俣の石牟礼道子さんが胎児性の患者さんたちを取り残さないように、いま“誰一人も取り残さない”を謳い、すべての人の幸せを願う“手段”として脚光をあびているのが「SDGs」（持続可能な開発目標）である。かつてローマ会議が「成長の限界」を訴え、そのつながりの中で、2015年国連で2030年に向けて、17ゴール、169ターゲットが定められた。SDGsがつなぐものは多様だ。課題と課題をつなぎ、地域と世界をつなぎ、個人と世界をつなぐ。～つまり、世界中の一人ひとりが主役なのだ。“SDGsを自分ごとにしてしよう！”が合言葉。未来の子どもたちの希望の芽を摘むことなく、世界中の多様な人々が自分らしく暮らしていける社会を、みんなで一緒に創りあげたいと願ってやまない。

（M生）

* TOPICS *

「松岡流ジャパンスタイル！！」

10月9日（土）午後の市民活動センターでの「まちの縁側」は、編集工学の第一人者松岡正剛さんの本“日本文化の核心”について語られた。京都生まれの松岡さんは、学生時代から足利には頻繁に来ていました。親戚のおばさん&詩人の岡崎清一郎さんが目当てでした。広範な知識で日本文化を読み取る歯切れの良さには一同感服。ジャパンスタイルはたいてい“おもかげ”や“うつろい”を通してやって来る！と喝破しました。よもやま話も交えて楽しく内容の濃い集いでした。

私のボランティアことはじめ

「羅針盤」

NPO 法人アニマシオン：指導員 川岸 洋子

大正9年生まれで、10年前に90歳で天寿を全うした父。私にあれこれ指示や命令をすることは一切なかった父が、一度だけ、新聞の切り抜きを見せながら「親は子どもにとって『羅針盤』になればいい」と語ったことがあります。『羅針盤』とは、人生の岐路や分岐点で進むべき方向を示してくれる道しるべにたとえられます。私も来年は還暦という節目を迎え、ふと、父の言葉を思い出しました。



父は、定年退職後も多彩な趣味や地域活動に大忙しの社交的な人でした。いつも多くの仲間にもまれて頼りにされていたのを、なんとなく覚えています。父が私に示してくれた人生の進むべき方向とは、「人とのつながりを大切にする」生き方でしょうか。

私は今、「NPO 法人アニマシオン」が運営する学童保育クラブの指導員として働いています。「アニマシオン」という法人名を伝えると、「アニマ？シオン??」と聞き覚えのない単語に、聞き返されることがあります。「アニマシオン」とは、「イキイキ・ワクワク・ハラハラ・ドキドキ」魂が揺さぶられる様子を表すスペイン語です。学童保育の生活の中で、泣いたり笑ったり、怒ったり悩んだり…。毎日繰り広げられる魂が揺さぶられる生活を表す言葉にぴったりだと思い、聞きなれない単語とは承知で、法人名にしました。

今、コロナ禍で「人とのつながり」が狭くならざるを得ない状況です。感染防止対策を実施したうえで、日常的な生活は取り戻しつつありますが、不特定多数の人が多く集まる行事などは自粛…。「非日常の楽しみ」と、「多くの人との出会いの喜び」から遠ざかった生活を余儀なくされています。安心していろいろな人とつながり、「イキイキ・ワクワク・ハラハラ・ドキドキ」する生活や体験を取り戻せる日まで、今できることをやっていくしかないですね。

私の定年退職までは、もう少し時間がありますが、退職後も、父が『羅針盤』として示してくれた「人とのつながりを大切にする」生き方を探していきたいと思うこの頃です。

サークル紹介

★「かばさき（樺崎）こどもの森」

樺崎町の自然の中で小中学生を対象にしたウォーキング・物作り・自然観察、体験・アドベンチャーチャレンジ等、遊びやものづくりの指導をしています。

参加希望者は1週間前までにご連絡ください。（定員15名）

開設日：日曜 10：00～12：00

連絡先 090-4378-2491（熊倉）



* INFORMATION *

(※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。)

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和4年2月19日(土) 13:00～15:00

*本:「かんのん讃歌」(相田みつを)

*案内人: 堀越 悠斗 さん

*ひとこと: 足高の前身旧制足高中卒の相田みつをさんは、足利発全国展開の先輩として有名ですが、若い頃は、書の道で迷い苦しむ時代もありました。そのアトリエの壁には仏像の写真が何枚も飾られており、その仏像との対話から数々の言葉が生まれました。また「禅の友」という雑誌に書かれた文章もあります。それらの言葉・文章は今を生きる私たちの心にも沁みるものがたくさんあります。一緒に!

★令和4年3月18日(金) 14:00～16:00

*「徒然草”から”シグナル”まで」～足利が登場する本たち～

*案内人: 白田 明 さん

*ひとこと: サブタイトルにもありますように、古代から現代まで、足利という地名や足利を舞台にした小説、詩、随筆、文章はたくさんあります。それらの中から、比較的有名なものや、またまったく一部の好事家の間でしか知られていないものなどを取り上げて、参加者の皆さんとお話ししてみたいと思います。乞うご期待!

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

☆企画展(交流コーナー)

- * 1月31日(月)～ 2月10日(木) 足利・銘仙と古写真展
 - * 2月14日(月)～ 2月24日(木) みんなのSDGs展
 - * 2月28日(月)～ 3月10日(木) 東日本大震災11周年展
 - * 3月14日(月)～ 3月24日(木) 足利・浅間山の写真展
- ※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで
(土・日・祝日・2/21・3/22は休館日)

☆相談室&講座

*相談室 = 毎月第2・第4水曜 14:00～16:00

*講座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

編集後記

国連が提唱している「SDGs」(持続可能な開発目標)をより深く掘りさげた“社会的共通資本の経済学”を半世紀も前に着想していた経済学者の故・宇沢弘文さんは、コロナ後の社会を予見していたとの評価が高まっている。また、鎌倉時代の宗教的革新者の遊行念仏僧・一遍は病者、障害者、女性への差別の否定により広く民衆の心をつかんだ。SDGs実践者としての再評価が望まれている。コロナ禍のいまこそ学びたい先達だ。(カサブランカ)